

(前期・後期共に同一内容のレポート科目)

平成29年度研究科横断型教育プログラム (Aタイプ) 授業科目

開講方式	Aタイプ (研究科開講型)	研究科名	情報学研究科	カテゴリー	情報活用・計算科学 科目群	横断区分	文理横断型				
授業科目名 (英訳)	情報分析・管理演習 (Information Analysis and Management, Exercise)		講義担当者 所属・職名・ 氏名	情報学研究科・特定助教 加藤 誠 情報学研究科・ 特定准教授・浅野 泰仁		開講場所	メディアセンター 南館 202				
配当学年	修士 博士後期 専門職	単位数	1単位	開講期	後期 (リピ ート)	曜時間	月5限 (16:30-18:00)	授業形態	演習	使用言語	日本語
〔授業の概要・目的〕											
<p>今日、文理の分野を問わず最先端の研究を進めていくには、大規模データの分析・管理技術が不可欠となっている。本講義では、コンピュータで問題を解くのに必要なモデル化やアルゴリズムとその情報検索への応用、データの管理およびデータから有用な情報や知識を抽出する技術、情報の分析結果の可視化と対話技術など、多くの分野で利用されているトピックを精選して、演習形式で具体的な問題を計算機で解く方法を学ぶ。</p> <p>【研究科横断型教育の概要・目的】</p> <p>上に述べたように、大規模データの分析・管理技術はあらゆる分野の研究に必要とされている。また、この授業では、各自がプログラミングの演習によって技術を実践できるレベルに到達することを目標としている。</p>											
〔到達目標〕											
<p>上に述べたように、大規模データの分析・管理技術はあらゆる分野の研究に必要とされている。本授業では、それらの技術の仕組みの基礎を理解するとともに、「情報分析・管理論」と連携して、各自が具体的な問題に対して技術を実践できるレベルに到達することを目標としている。</p>											
〔授業計画と内容〕											
ガイダンス (1回)	演習の準備およびプログラミング言語 R のインストール、簡単な使い方										
問題のモデル化と問題の解き方、情報検索(5回)(担当: 浅野)	講義で扱った、グラフを用いたモデル化とアルゴリズム(オイラー閉路、最短経路)や PageRank について、R で実際に問題を解く方法を学ぶ。さらに、正規表現や配列解析(ペアワイズアラインメント、隠れマルコフモデル)についても、R で解く方法を学ぶ。また、問題を解くだけでなく、可視化などを通じて結果を分析する基礎を身につける。										
データマイニング (3回)(担当: 浅野)	データを分析して、有用な情報や知識を抽出するデータマイニング技術(アソシエーションルール、クラスタリング、決定木、サポートベクターマシンなど)を、R で実行する方法を学ぶとともに、得られた結果を解析する。										
データベース (2回)(担当: 加藤)	大規模な情報を管理するデータベースを、MySQL を用いて実現する方法を学ぶ。										
情報検索(2回)(担当: 加藤)	大量の文書データから必要な情報を検索する技術について学ぶ。基礎的な検索モデル、索引技術やランキング学習を通して、現状の検索システムがどのように動作しているのかを理解する。										
情報の可視化と対話技術 (2回)(担当: 加藤)	分析結果などの情報の可視化、インタラクション技術、情報発信技術について、Processing を用いた演習を行う。										
〔履修要件〕											
<p>情報分析・管理論を受講していること。</p> <p>プログラミングを伴う演習を受講する意欲があれば、プログラミング経験は問わない。</p> <p>各自のノート PC 等の持ち込みを前提としているが、貸出用の PC も用意している。</p>											
〔成績評価の方法・観点及び達成度〕											
<p>演習で扱った情報分析・管理技術を理解し、具体的な問題に応用し、実際にその解を計算できるようになることが達成目標である。「情報分析・管理論」と合わせて、出席状況および毎週のレポートによってこの目標に到達しているかどうかを検証し、成績を算出する。</p>											

<p>〔教科書〕</p> <p>特になし</p>
<p>〔参考書等〕</p> <p>D. Easley, J. Kleinberg (著), 浅野孝夫, 浅野泰仁 (翻訳) 『ネットワーク・大衆・マーケット -現代社会の複雑な連結性についての推論- Crowds, and Markets: Reasoning About a Highly Connected World』(共立出版 Cambridge University Press)</p> <p>Jon Kleinberg, Eva Tardos (著), 浅野孝夫, 浅野泰仁, 小野孝男, 平田富夫 (翻訳) 『アルゴリズム・デザイン Algorithm Design』(共立出版 Addison Wesley)</p> <p>Richard Durbin, Sean R. Eddy, Anders Krogh, Graeme Mitchison. 『Biological sequence analysis -Probabilistic models of proteins and nucleic acids-』(Cambridge University Press)</p> <p>C.M. ビショップ(著), 元田浩, 栗田多喜夫, 樋口知之, 松本裕治, 村田昇 (翻訳) 『パターン認識と機械学習 -ベイズ理論による統計的予測- 上・下巻 Pattern Recognition and Machine Learning』(シュプリンガー・ジャパン Springer-Verlag)</p> <p>H. Garcia-Molina, J. D. Ullman, J. Widom 『Database Systems: The Complete Book』 (Prentice Hall)</p> <p>C.J. Date 『An Introduction to Database Systems』 (Addison Wesley)</p> <p>増永良文 『リレーショナルデータベース入門』 (サイエンス社)</p> <p>W. Bruce Croft, Donald Metzler, Trevor Strohman 『Search Engines: Information Retrieval in Practice』 (Addison-Wesley)</p> <p>Stefan Buettcher, Charles L. A. Clarke, Gordon V. Cormack 『Information Retrieval: Implementing and Evaluating Search Engines』 (The MIT Press)</p> <p>Jenifer Tidwell (著), ソシオメディア株式会社 (監訳), 浅野 紀予 (訳) 『デザインング・インタフェース～ パターンによる実践的インタラクションデザイン ～』 (オライリー・ジャパン)</p> <p>Ben Fry (著), 増井 俊之 (監訳)(監修), 加藤 慶彦 (翻訳) 『ビジュアライジング・データ Processing による情報視覚化手法』 (オライリー・ジャパン)</p> <p>Marti Hearst 『Search User Interfaces』 (Cambridge University Press)</p>
<p>〔授業外学修(予習・復習)等〕</p> <p>必要な場合は授業中に指定する。</p>
<p>〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕</p> <p>前期・後期共に同一内容のリポート科目である。</p> <p>自身の研究に, 種類は問わず, 何らかのデータを用いている学生を歓迎する。</p> <p>オフィスアワーについては特に指定せず, メールのやり取りで随時行う。</p> <p>浅野泰仁: asano@i.kyoto-u.ac.jp 加藤誠: kato@dl.kuis.kyoto-u.ac.jp</p>